



交通 高齢者タクシー 利用補助券の 交付枚数増へ

「私の視点」
現在の高齢者タクシー利用補助券の交付枚数では、移動手段に不安を抱える高齢者の支援に不十分である。たまGOの利便性向上と相まって早期に改善すべきである。

答弁（町長） 現在の48枚から60枚への増刷を検討している



交通 交通弱者の 安全確保を

「私の視点」
旧国道354号の歩道整備が全くなされていない地域がある。大型車両や通勤車両が多い道路の歩道整備は急務。

答弁（町長） 危険な状況なので歩道整備を県に働きかける

問 旧国道354号（県道綿貫篠塚線）の歩道が設置されていない区間について早急に対応を。

答（町長） 土木事務所によれば、県道綿貫篠塚線の玉村管内の歩道整備については、通学路の安全確保を目的として、平成25年度から令和2年度までを1期工区として、上飯島交差点から西側の両側歩道について整備を実施し、令和4年度からは2期工区として、下新田交差点から玉村小学校付近までを実施中とのことである。

現在は道路の北側の工事を実施しており、北側完了後は南側の歩道整備を行い、その後、上新田地内の玉村八幡宮から玉村高等学校入口までの間の両側歩道の整備を実施する計画とのことである。それより西側については、現時点では未定とのことである。

玉村高等学校入口より西側の歩道についても、幅員は狭く、危険な状況なので、引き続き、歩



歩道もないのにどうしたら安全に歩けるのか。
手前はマウントアップ式※で危険な歩道

道整備が延伸されるよう県に働きかけていきたいと考えている。

※マウントアップ式：歩道面および縁石天端を車道面より高くすることで車道と分離した形式の歩道構造

玉村町B&G海洋センターの今後の 運営方針、改修、修繕計画等

問 玉村町B&G海洋センターの改修工事を早急に。

答（教育長） 近年は温水プール内の様々な設備等に次々と不具合が発生していることから、令和8年度に館内施設を一新する大がかりな長寿命化工事を行うこととし、今年度はその設計に取りかかっている。その際、ジャグジーは採暖プール※へ仕様を変更する。

※採暖プール：体を温めることを目的とした温水プール

温暖化に伴う教育関連設備の対応等

問 学校給食センター調理室の対策を実施し、安全な給食の提供を。

答（教育長） 学校給食センターの調理室や洗浄室については、室内全体を冷やす冷房設備は設置されておらず、室内が高温となり、体調を崩す作業員も出るなど労働環境的には大変過酷な状況となっている。調理室・洗浄室全体については、冷房設備の早急な設置が必要と考えている。

害協定締結の状況はあるか。

答（環境安全課長） 伊勢崎市がALSOK群馬株式会社と「災害時における避難所等の安全確保等に関する協定」を締結している。業務内容としては、避難所等の警備のほか無人航空機による被災状況の情報提供等である。

町政運営における財政戦略について

問 令和6年度決算において、繰越金の多寡にもつながら実質収支比率8.1%は、国の指標（3～5%）に比して高いのではないか。

答（総務課長） 群馬県の町村の平均は7～8%ほどであり、特段玉村町が高いというわけではない。

問 「高齢者タクシー利用補助券」の交付枚数は原則48枚にとどまっている。移動手段を自ら確保できない高齢者にとって、補助券が月2～4枚程度では、通院・買物・行政手続等の移動需要を十分に満たしていないと考える。補助券の増刷を検討する考えはあるか。

答（町長） 補助券を必要とする方に、より適切な支援を行うため、特に運転免許を持っていない高齢者の方を対象に交付枚数を現在の48枚から60枚に増刷することを検討している。

問 今後、補助券の利用者数の増加が見込まれる中、たまGOとの統合的な見直しを検討しているか。

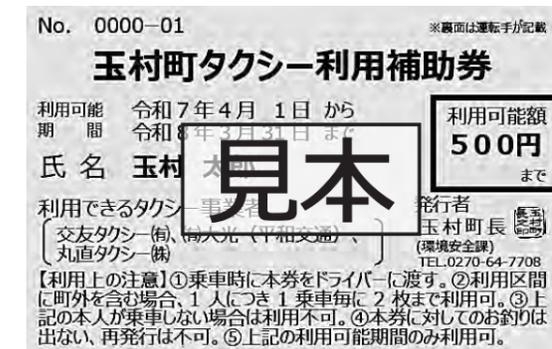
答（町長） たまGOの運行時間の延長をはじめ、補助券については現在設けている町外利用制限（乗降地点のいずれかが町外の場合には1回の乗車につき補助券使用を2枚まで）の撤廃を視野に入れている。

災害時における民間事業者との災害協定締結

問 玉村町は避難所運営においては、行政職員のマンパワー不足等が課題となっている中で、防災警備会社による支援導入の可能性についてどう考えているか。

答（町長） 協定締結の検討を進め、一層安心・安全な避難環境の整備を可能にすると同時に、行政職員の負担軽減につなげていきたい。

問 県内他の自治体における防災警備会社との災



今後、利用枚数増と町外利用制限の撤廃が見込まれる